

1 市長の公約について

市長は選挙公約の一つとして、中国新聞のインタビューや各種報道において、「安心して産み育てられる場所」の確保を掲げ、竹原市内で分娩ができる体制を復活させることを若者の移住・定住を促すための最優先課題の一つとして位置づけられました。また、その実現に向け、「トップセールスで産科医・小児科医を呼び込む」と力強く宣言され、市民の間には市内分娩復活への大きな期待が生まれています。

私自身も、安心して子どもを産み育てられる体制整備は、市の将来を左右する極めて重要な課題であり、市長がこれを公約の柱に据えられたことを高く評価しております。

一方で、全国的に産婦人科の閉院が相次ぎ、医師確保が極めて困難な状況にあることは周知の事実であります。本市においても、これまで医師確保に苦労してきた経緯を踏まえると、この課題は決して容易なものではなく、市長自らが前面に立つ「トップセールス」がどこまで現実的な突破口となり得るのかについては、疑問に思うところであります。

さらに申し上げますと、私は市内で分娩が可能となる体制の実現そのものには賛同する立場であります。だからこそ、市民に過度な期待だけを抱かせるのではなく、実現可能な道筋を市長ご自身の言葉で明らかにしていただきたいと考えております。

その上で、分娩を担う産婦人科体制の確保について、市長の認識と具体的な構想を伺います。

- ① 市長が言及されている「トップセールス」とは、具体的に医師個人への働きかけなのか、医療機関や大学等の組織との連携なのか、どのような条件や支援策を提示し、市長、市職員、関係機関がそれぞれ、どのような役割を担って誘致を進めていくのか。現時点で想定されているスキームについて、市長の考えをお聞かせください。
- ② この取組を市政運営全体の中でどのような戦略的位置づけとして進めていこうとされているのか。また、現時点で想定されている方向性について、市長の認識をお聞かせください。

- ③ 市長の任期中において、医師確保、分娩体制の構築、医療機関との連携体制など、どこまでを目指されているのか、市長のビジョンをお聞かせください。
- ④ 今回の公約は、単に産婦人科医を確保することにとどまらず、市内で実際に分娩を担うことができる体制の構築までを視野に入れたものと理解しておりますが、その内容について、市長の考えをお聞かせください。
- ⑤ 本市には現在、分娩こそ扱っていないものの、市内医療機関において、毎週金曜日に妊婦健診を実施し、地域の妊婦さんを支えてくださっています。また、休日や夜間診療を担い、地域医療を支える多くの医師の皆さんがおられます。

私は、こうした医師の皆さんの献身的な努力こそが、竹原市の地域医療を支える大きな柱であると考えています。この体制は私だけでなく、多くの子育て世代が日常的に支えられているものであり、近隣自治体と比較しても貴重な医療体制であると認識しています。

その一方で、分娩体制の整備を進めるにあたり、新たな医師の確保だけでなく、現在すでに地域医療を支えている医師や医療機関が安心して診療を続けられる環境を維持することが不可欠であると考えます。仮に、新たな医療体制の構築が既存の医療機関や医師の負担増、あるいは離脱につながるようなことがあれば、それは本市の地域医療全体にとって大きな損失となります。

市長はこれまで、目的が不明確な施設整備を「ハコモノ行政」として批判されてきましたが、私は、医療体制の強化とは、単に新しい施設を整備することではなく、今ある医療資源を尊重し、支えていく姿勢が不可欠であると考えます。

分娩体制の整備を進めるにあたり、現在の地域医療を支えている医師や医療機関に対して、市としてどのような配慮と支援を行い、地域医療全体の持続性を確保していくのか、市長の見解をお聞かせください。

2 小中学校のトイレの洋式化について

子どもたちが一日を過ごす学校において、トイレに不安を感じることなく、安心して利用できる環境が整っているかどうかはすべての学びの前提条件であると考えます。

近年、家庭では洋式トイレが当たり前となる中で、学校のトイレ環境が子どもたちの実態に合っていないと保護者から相談がありました。

そこで、私は昨年、竹原西小学校・中通小学校・竹原中学校のトイレを調査してまいりました。その結果、各場所のトイレに洋式便器は1基設置されているものの、その他は全て和式便器が中心という状況でした。また、現地では使用できないまま放置されている便器や破損が見られる箇所も確認しました。

清掃自体は丁寧に行われているものの、施設の老朽化や設備の不具合により、清掃だけでは改善できない衛生面や利便性の課題が存在していると感じました。さらに、トイレ空間全体として、寒さや暗さといった環境面の課題も見受けられ、児童生徒が安心して利用できる環境とは言い難い状況があると受け止めています。

さらに、竹原西小学校においては、教職員用トイレが男女共用となっている状況を確認しました。入口は一つで、内部で男女に区分されているものの、同一空間を共有する構造となっており、教職員が安心して利用できる環境とは言い難い状況です。教職員が基本的なプライバシーが十分に確保されない環境で勤務している現状は、教育現場として看過できるものではなく、早急な改善が必要であると考えます。

本市議会では、すでに15年以上前に先輩議員が「学校トイレの洋式化について」の一般質問を行っています。当時の答弁では、小学校全体の洋式便器設置率は15.3%、中学校全体では18.5%と示されました。

また、市は「使い慣れた洋式トイレへの改修が必要」との認識を示し、児童がトイレを我慢するなどの健康上の課題や、いわゆる学校トイレの「5K」ー暗い、怖い、汚い、臭い、壊れているーの改善が重要であると答弁しています。

しかし、それから15年以上が経過した現在においても、現地を確認した結果、多くの和式便器が残っている状況でした。

そこでお伺いします。

- ① 市として、15年以上前から課題として認識してきた学校トイレの洋式化について、現在の設置率と、それを踏まえ、十分な改善が図られてきたと考えておられるのか伺いたします。
- ② 国は~~文部科学省~~の方針として、2025年度までに学校トイレの洋式化率95%を目標に掲げています。今回確認した市内小中学校の状況は、この国の目標と大きな隔たりがあるのではないかと感じていますが、市として、この目標をどのように受け止めているのか、見解を伺います。
- ③ 和式トイレに慣れていない子どもたちが使用をためらったり、我慢することで、健康面や学校生活への影響が生じる可能性も否定できません。こうした点について、市は児童生徒の実態や影響をどのように認識しているのか伺います。
- ④ 竹原西小学校における教職員用トイレが男女共用となっている状況について伺います。教職員が安心して働ける環境を整えることは、教育の質を支える上でも重要であり、プライバシーや職場環境の観点から、早急に改善すべき課題であると考えます。この状況について、市としての認識及び当面の対応方針について伺います。
- ⑤ 子どもたちや教職員の尊厳・健康を守る視点から、小中学校のトイレ洋式化および教職員トイレの環境改善については、場当たり的な対応ではなく、計画的に進めていく必要があると考えます。今後、市としてどのような優先順位や工程をもって整備を進めていくのか、見解を伺います。